



# 学校だより SEIDO

令和8年1月16日15号

芦屋市立精道中学校

～ 一人を大事に 一秒を大事に ～

## 明日を信じて

あの日のことはわすれない  
けっして



かけがえのない尊い命をうばった  
あの地震  
人々をきょうふの世界へ送りこんだ  
あの地震

でもね…

明日への希望をあたえてくれたのも  
あの地震  
人々に生きるという喜びをあたえてくれたのも  
あの地震

ボランティアの人たちのすがたが  
今でも目にやきついている  
あの時のおみそ汁  
すぐくあたたかかった

明日を見つめているわたしたち  
生きるという喜びをかみしめて

(兵庫県防災教育副読本「明日に生きる」より)

1月17日を前に、今日は全校生・全職員でたくさんの事を考える時間を持ちました。1.17のつどいでは、震災時、警察官として勤務されていた本校職員からの話も聴かせていただきました。大切な命を守るため、防災についてご家庭でも今一度ご確認いただくと今日の学びがさらに生きてまいります。よろしくお願いいたします。

1995年1月17日5時46分、大きな地震が起こり、兵庫県では6434名の方が亡くなりました。芦屋市の被害は街の半分以上が全半壊となり、当時精道中学校に通う5名の生徒を含む444名が尊い命をおとされました。

震災の前の週、いつものように授業や掃除をして、いつものようにさようならと下校を見送りました。それきり5名の生徒と会えなくなりました。

5名はまだまだたくさんやりたいことがあったでしょう。友だちとたわいもない話をしたり遊んだり、勉強や部活動にとりくんで、お家の人にも甘えて兄弟喧嘩もして…。そして、卒業時には進路を考え、社会で活躍し多くの人と出会うはずでした。

突然それらを奪われ、ほんとうに悔しかったと思います。

あの大きな震災は、経験した者にとっては31年経ってもこの間のような気がしています。

学校が再開されたのは2月2日、ヘリコプターが飛んで学校再開の日を知らせてくれました。避難している生徒も多く、全員が集まることはできませんでしたし、制服ががれきの中で取り出せない人も多くいましたが、学校に集まった精中生は抱き合って再会を喜びました。その姿を知っているからこそ、今日無事に皆さんが登校していることに心から感謝します。

また私事ですが、その年の3月に出産のため学校を去ることになりました。その時は、まだ学校も避難所の状態でしたからお休みをいただくのも心苦しく思ったのですが、ある先生が「こんな時だからこそ、新しい命が生まれることをお祝いしましょう。」とってください、送り出していただきました。

あの一言が不安を減らしてくれたこと、言葉というのはこんなにも人を勇気づけてくれるのかと思ったこと、これも31年経っても覚えています。

明日で阪神大震災から31年。

1月17日は、兵庫県芦屋市に縁があり、精道中の歴史を引き継いでいる私たちは、たくさんの命が失われた「重み」を受け止め、「一生懸命生きる」「今を楽しむ」と決意する一日だと思っています。

今日は心を込めた黙とうをありがとうございます。あの震災は知らなくとも、これから未来を担うみなさんにもたくさんの事を考えてもらいたいです。これからも「一人を大事に 一秒を大事に」していきましょう。